

目次

はじめに.....	5
第1章 「監査報告書」のパラダイムシフト.....	11
第1節 はじめに.....	11
第2節 監査報告書の課題とその進展	13
2・1 監査報告書について.....	13
2・2 監査報告書の議論の進展 ⁽²⁾	14
2・3 監査報告書の内容について.....	18
第3節 監査報告書の役割と有用性について	18
3・1 意義	18
3・2 監査報告書の有用性の調査について	19
3・3 要約	23
第4節 IFRS の主要特徴と監査報告の内容の変化.....	23
4・1 IFRS の主要特徴.....	23
4・2 監査報告書の内容の拡張 ⁽⁹⁾	25
第5節 おわりに.....	28
第2章 世界同時金融危機と国際会計	32
第1節 プロローグ	32
第2節 4つの論点.....	33
第3節 公正価値会計のフレーム・オブ・レファレンス.....	35

第4節 国際会計基準と公正価値会計の拡充可能性.....	37
第5節 エピローグーIFRS導入と財務報告システムのあり方.....	39
第3章 「原則主義」対「細則主義」と監査人の判断形成.....	41
第1節 はじめに.....	41
第2節 「原則主義」対「細則主義」.....	42
第3節 実験の概要.....	43
第4節 アグレッシブな財務報告に関する実験 1.....	44
4・1 リサーチ・デザインの背景.....	44
4・2 具体的な質問内容.....	46
4・3 実験1に関する仮説設定.....	46
第5節 アグレッシブな財務報告に関する実験1の結果.....	48
5・1 会計方針の関与.....	48
5・2 監査人の連結判断の形成.....	49
5・3 一般的な会計監査人の連結判断のミニマムの確信度.....	51
5・4 監査人の連結判断の形成と自己規律としてのミニマムの確信度ー細則主義....	52
5・5 監査人の連結判断の形成と自己規律としてのミニマムの確信度ー原則主義....	53
5・6 連結判断の形成ー細則主義 vs. 実質優先主義.....	54
第6節 形式的な数値を伴った細則主義の会計判断に与える影響についての実験 2.....	55
6・1 リサーチ・デザインの背景.....	55
6・2 具体的な質問内容.....	57
6・3 実験2に関する仮説設定.....	57
第7節 形式的な数値を伴った細則主義の会計判断に与える影響についての実験結果..	58
第8節 結びにかえて.....	60

第4章 IFRS 時代の最適開示制度設計のあり方	63
《プロローグ》	63
第1節 IFRS 導入による日本企業への影響と企業開示制度の課題	63
第2節 日本型経営の持続的発展可能性	65
第3節 IFRS 公正価値会計と投資決定有用性	67
第4節 2つの会計モデルの共存可能性ー市場指向型モデルと関係指向型モデル	68
第5節 企業の持続的成長と非財務情報の役割	71
《エピローグー日本型最適開示制度の構築に向けて》	73
第5章 証券アナリストによる非財務情報の活用	76
第1節 プロローグ	76
第2節 無形資産情報のリスク関連性	78
第3節 リスク指標の多様性と非財務情報の必要性	80
第4節 投資家のリスク概念と非財務情報の有用性に関する調査分析	83
4・1 研究方法	83
4・2 調査結果と分析	84
第5節 エピローグ	92
第6章 中小企業の非財務情報の有用性	96
第1節 はじめに	96
第2節 知的資産の概念と分類	97
第3節 高成長中小企業の競争優位性と知的資産	99
3・1 競走優位性の理論的枠組み	99
第4節 わが国中小企業と知的資産経営	100

4・1 ケース企業の選定基準	101
4・2 ケース 1:流通卸売企業の情報力-G 社	101
4・3 ケース 2:モノ作り企業の技術力-J 社.....	104
第5節 中小企業における知的資産経営と金融機関による融資判断.....	106
5・1 融資フローにおける非財務情報の活用度.....	106
5・2 非財務情報が融資条件に及ぼす影響.....	107
5・3 非財務情報の利用の度合い	108
第6節 おわりに	110